

6 アライグマ・ハクビシン捕獲活動（外来種対策の最新状況） （パプロ）

市では、在来の生態系等を守るため、平成24年度から外来種対策に取り組んでいます。レンジャーは、平成25年2月からその対策の一つであるアライグマとハクビシンの捕獲事業を補助し、アライグマ40頭とハクビシン8頭の捕獲に成功しました（菅生、草花、小宮の一部）。この活動により、本市の生態系が守られることが期待されており、トウキョウサンショウウオの産卵においては、既に被害が減少し、他の両生類なども増加しています。まだ対策が不足している場所が存在するため、この活動を継続・強化すべきだと考えています。

外来種（アライグマ・ハクビシン）は、里地里山及び水辺環境において多数確認されており、特に市街地周辺に広がる森林や緑地、河川敷、水田などに生息し、在来種への圧力や農業被害、更には民家への侵入も確認されていることから、環境問題を超えた大きな衛生問題となっています。また、全国的に駆除運動が進みつつあるアメリカザリガニを始め、ガビチョウやアカミミガメ（ミドリガメ）などの外来種に注目し、更に広い範囲での対策が急務となります。その他にも、平成25年9月に本市で始めて確認されたコーンスネーク（これまで1例のみ）や、市内では完全に駆除されたとされるタイワンリスも今後は要注意の外来種になります。



ピオトープなどに設置したセンサーカメラの画像。アライグマがヤマアカガエル（左）やトウキョウサンショウウオ（右）を捕食している瞬間となります。

○ アライグマ・ハクビシンの捕獲活動における課題など

アライグマやハクビシンは、在来種のアナグマやタヌキなどと同様学習能力が高く、餌や罠などを理解し、罠にかからないよう気を付けて行動をするようになるため、捕獲率が低下しています。

また、タヌキなどの在来種も罠にかかることがあり、罠の餌を食べることにより餌付け問題などに繋がってしまう可能性があります。これまで罠の仕掛けなどを工夫して捕獲

を続けてきましたが、このような問題により限界を感じることもあり、恐らくアライグマやハクビシンを絶滅させることは不可能であると考えています。ただし、捕獲活動による個体数の減少や個体群の分断に伴い、繁殖率や生存率などの低下が考えられ、その循環によりこれら外来種の生息密度は最低レベルに減ることが予想されます。

自然への圧力や人間への影響が大幅になくなることが期待されるため、捕獲数が減少しても、この活動を継続することはとても重要であると感じています。

〈森林レンジャーあきる野で行った捕獲の記録〉

日付	地区	種類	性別	体重
平成25年2月15日	菅生	アライグマ	オス	7.5Kg
平成25年3月1日	菅生	アライグマ	メス	8.0Kg
平成25年3月1日	菅生	アライグマ	-	-
平成25年4月24日	菅生	ハクビシン	-	-
平成25年5月13日	菅生	アライグマ	-	5.0Kg
平成25年6月13日	菅生	ハクビシン	-	2.0Kg
平成25年7月26日	菅生	アライグマ	-	4.9Kg
平成25年8月14日	菅生	アライグマ	オス	2.1Kg
平成25年8月14日	菅生	アライグマ	オス	2.3Kg
平成25年9月10日	菅生	アライグマ	(幼)	-
平成26年1月8日	菅生	アライグマ	メス	4.6Kg
平成26年3月11日	菅生	アライグマ	オス	6.8Kg
平成26年3月19日	菅生	アライグマ	メス	6.2Kg
平成26年3月29日	菅生	アライグマ	メス	5.1Kg
平成26年4月8日	菅生	アライグマ	メス	4.5Kg
平成26年4月9日	菅生	アライグマ	オス	7.8Kg
平成26年4月16日	菅生	アライグマ	オス	6.4Kg
平成26年4月16日	菅生	アライグマ	オス	8.8Kg
平成26年4月23日	菅生	アライグマ	オス	6.2Kg
平成26年5月15日	菅生	ハクビシン	メス	3.6Kg
平成26年5月16日	菅生	アライグマ	オス	4.6Kg
平成26年5月16日	菅生	アライグマ	オス	5.0Kg
平成26年5月16日	菅生	アライグマ	オス	5.8Kg
平成26年7月8日	菅生	アライグマ	オス	5.2Kg
平成26年9月17日	菅生	アライグマ	オス	7.4Kg
平成26年10月1日	菅生	アライグマ	メス	4.0Kg

日付	地区	種類	性別	体重
平成26年10月8日	菅生	アライグマ	オス	5.4Kg
平成26年10月24日	菅生	アライグマ	オス	7.6Kg
平成26年10月30日	菅生	アライグマ	オス	10.0Kg
平成26年12月10日	菅生	アライグマ	オス	9.0Kg
平成27年2月13日	菅生	アライグマ	オス	4.4Kg
平成27年3月18日	草花	アライグマ	オス	5.2Kg
平成27年4月16日	菅生	アライグマ	オス	3.2Kg
平成27年4月22日	草花	ハクビシン	メス	3.2Kg
平成27年4月28日	菅生	ハクビシン	オス	3.4Kg
平成27年5月12日	菅生	アライグマ	オス	5.0Kg
平成27年5月20日	草花	アライグマ	オス	5.2Kg
平成27年5月29日	草花	アライグマ	オス	5.6Kg
平成27年6月5日	草花	アライグマ	オス	3.7Kg
平成27年6月17日	小宮	アライグマ	オス	5.5Kg
平成27年6月25日	菅生	アライグマ	オス	6.5Kg
平成27年7月1日	小宮	ハクビシン	メス	3.4Kg
平成27年11月9日	菅生	アライグマ	オス	5.3Kg
平成28年1月15日	菅生	ハクビシン	オス	1.4Kg
平成28年2月18日	草花	アライグマ	オス	4.8Kg
平成28年2月24日	菅生	アライグマ	オス	6.8Kg
平成28年3月18日	菅生	ハクビシン	オス	1.8Kg
平成28年3月18日	菅生	アライグマ	メス	6.8Kg

年度	アライグマ			ハクビシン		
	オス	メス	不明	オス	メス	不明
平成24年度	1頭	1頭	1頭	—	—	—
平成25年度	3頭	3頭	3頭	—	—	2頭
平成26年度	15頭	2頭	—	—	1頭	—
平成27年度	10頭	1頭	—	3頭	2頭	—
少計	29頭	7頭	4頭	3頭	3頭	2頭
合計	40頭			8頭		



捕獲したアライグマ（左）やハクビシン（右）。人間の間違った行動（ペット等として輸入し、自然界に放逐した）によって、「罪」のない生き物が悪者として扱われ残念な結末になっています。

7 堅果類豊凶調査 (加瀬澤)

多くの野生動物が利用している堅果類の着果状況を調査することで、ツキノワグマなどの野生動物が人里に下りてくる可能性の大小を把握することを目的に、平成25年度から27年度までの3年間に於いて市内のブナ科の樹木の着果状況を2つの方法で調査しました。

方法1・・・指標木の着果数カウント調査

方法2・・・目視で判断しメッシュエリア及び樹種ごとにまとめる

森に生育するブナ科の樹木は標高によって変わります(図1)。このうち、奥山に生育する樹種として、ブナ、ミズナラ、ヤマグリ、コナラ、クリの着果状況を調査しました。

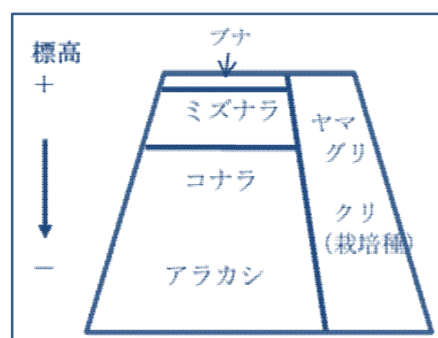
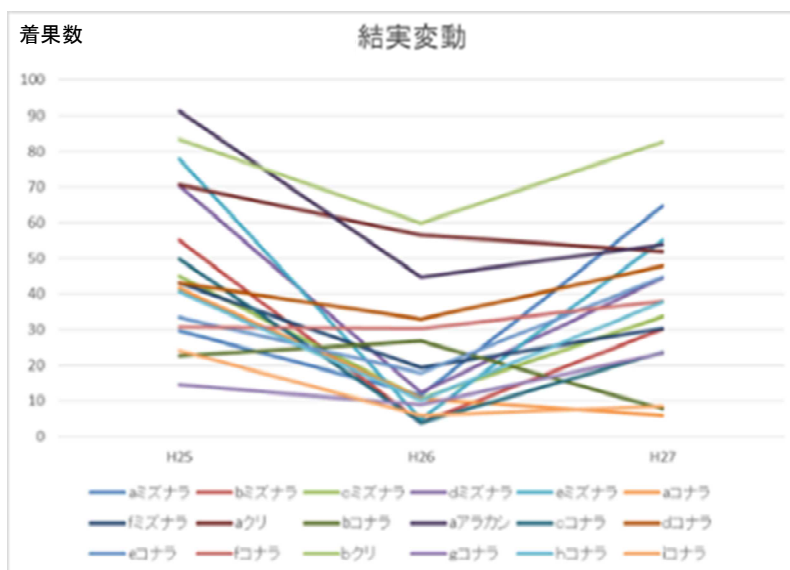
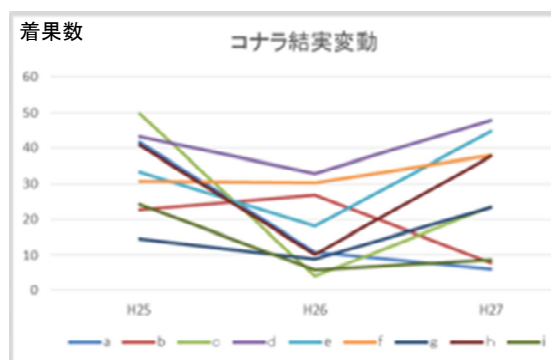
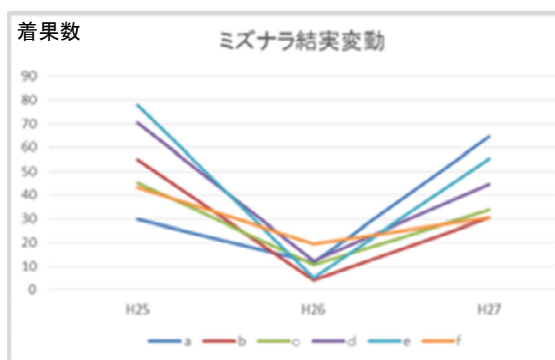


図1 市内に生育するブナ科の樹木

① 方法1の調査方法と結果

方法1は、双眼鏡又は裸眼により着果数をカウントする測定(30秒)を5回行い(調査者が同じ場合と違う場合がある)、得られたカウント数の平均を出し、その変動を見るというものです。調査している指標木の本数は、伐採や枯損、追加によって年度ごとに異なり、3年連続して同じ調査ができた指標木は18本です。



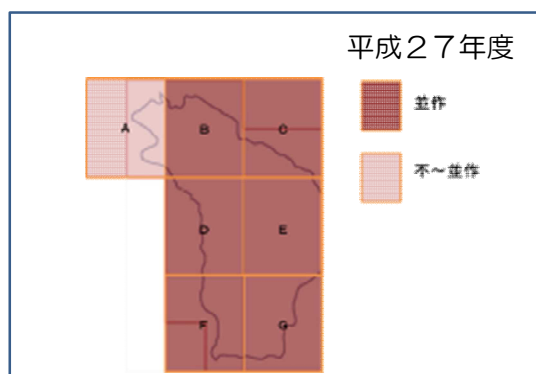
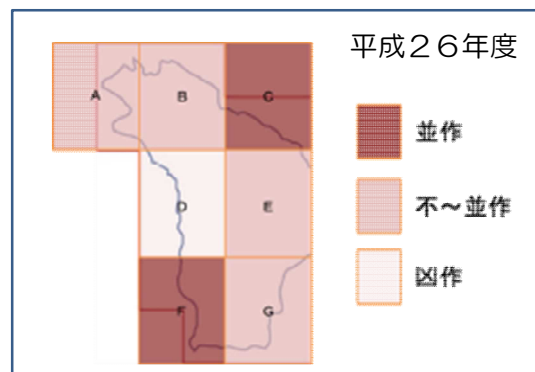
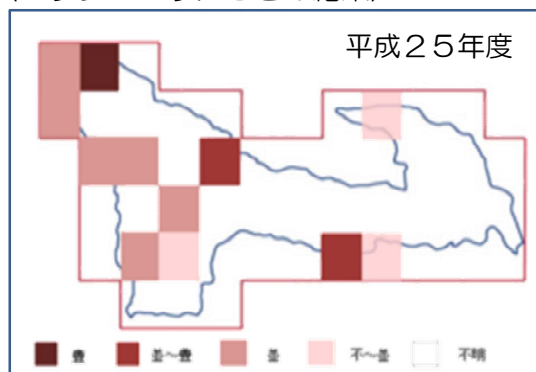


② 方法2の調査方法と結果

方法2は「豊作は樹冠全体に密に着果、並作は樹冠全体に疎に着果又は一部で密に着果、不作はまばらに着果、凶作は実は見られない」とレベルを定め、メッシュエリア内の登山道（尾根、沢）と林道・車道沿いを歩き、着果状況を調査しました。

年度	調査本数	全体調査結果	樹種別調査結果			
			ブナ	ミズナラ	コナラ	クリ
平成25年度	21	並～豊作	並～豊作	並～豊作	並作	豊作
平成26年度	90	不～並作	凶作	不作	不～並作	不～並作
平成27年度	389	並作	凶作	並～豊作	並作	不～並作

〈メッシュエリアごとの結果〉



平成27年度の市内全体の着果状況は並作でしたが、メッシュエリアでは青梅市、檜原村、奥多摩町との行政界にあたるAメッシュが不～並作となりました。理由としては、Aメッシュのヤマグリが凶作に近い不作であったことが挙げられます。そこで、本市周辺の状況を確認するため、奥多摩町と檜原村の境にある市外の月夜見山（標高1,147m）周辺の着果状況も調査しました。ブナを確認することはできませんでしたが、ミズナラ、ヤマグリ、コナラの着果状況は確認することができました。その結果、ヤマグリについては並作に近い不～並作でした。あくまで一部の確認ですが、市内のヤマグリに比べると着果状況は良いようでした。

また、日の出町の三ツ沢から肝要にかけての平井川沿いには、オニグルミやクリ類（栽培種のクリが大半で中にはヤマグリも見られました）が多く、共に並～豊作でした。その他、カキやマタタビ科、ミズキの実も確認できました。

③ まとめ

方法1の調査では、ミズナラは同調性が高く（直線距離で約7km）コナラ、クリは同調性が低いということが確認できました。方法2では、市内堅果類の着果状況について、平成25年は並～豊作、26年は不～並作、27年は並作という結果が得られました。また、結実変動が大きい奥山の堅果類に比べると、人家近くに生育する栽培種のクリやオニグルミは毎年平均的に着果していることから、奥山が凶作の際には、野生動物が人里近くまで出てきてしまう可能性が高まるため、奥山の堅果類の着果状況を踏まえて注意喚起をする必要があると考えています。

なお、調査の結果は毎年東京都に報告しています。

④ 注意喚起

平成25年からコレンジャーと共に1メッシュ内の1地点4樹種について、方法1により豊凶調査を行っています（1樹種は平成27年に伐採されたため新たな指標木を選定しました）。平成26年には「野生動物と人の命を守るために自分たちにできること」をコレンジャーが話し合った結果、「ゴミは決まった時間に出す、果実は収穫する」などといった注意喚起ポスターを作成することにしました。ポスターは毎年コレンジャーが作成し、小宮地区の6自治会の掲示板に掲示させていただいています。「野生動物を人里へ誘引しない」ということが、自然と人が持続的に共存していくための取組の一つであることを地域の皆さんに伝え、協力していただいています。



コレンジャーが作成した注意喚起ポスター

8 キノコについて （杉野）

○ キノコとは

キノコの日本語表記は「キノコ」や「茸」「きのこ」などたくさんあります。スーパーで食料品として販売されているものは「茸」又は「きのこ」が使われ、図鑑のタイトルには「キノコ」が使われていますが、これには明確な使い分けがあります。

キノコの食用部位は子実体という主に柄と傘を持つ形をしています。この食用の子実体を指す言葉として使われるのが「茸」又は「きのこ」となります。一方「キノコ」は、子実体だけでなく子実体の下に広がる根のような部位となる菌糸などを含めてキノコの全てを指す場合に使います。キノコは、この子実体や菌糸など全てを含んで始めて菌類としてのキノコと言えるのです。菌糸は植物で言う根のように見えますが、ここがキノコの本体で、地上で目にする子実体（きのこ）は、伸びて傘を開き胞子を飛ばす1つの器官となります。植物に例えると、子実体は花に当たり、開花・結実をして種を作り子孫を増やす役割を果たしている部位で、菌糸は植物本体となる幹や枝、葉、根などの役割を果たしています。

日本には学名がついてリスト化されているキノコが6, 153種あり、そのうち、和名がついているものが4, 761種、残り1, 392種については和名すら付いていない状況です。また、4, 761種のキノコが網羅されている図鑑はなく、キノコを同定する場合は複数の図鑑を使って探し出すことになります。リスト化されている6, 153種については、これまで亜種や地域差とされていたものが、DNAの解析という最新の分類方法によって新たな種として登録されているため、更に増えることが予想されます。食毒についても、それまで可食キノコとなっていたものが、ある日突然有毒成分が発見されて不食キノコ（毒キノコ）に分けられることも多々あります。ナラタケも以前は美味しい可食キノコとされていましたが、今では不食キノコに分類され、図鑑などにも毒キノコとして紹介されています。詳しく調べられているキノコは極一部で、分類や食毒など、まだまだ未知の生物です。



ナラタケ

○ 森とキノコ

森の中には、樹木や草本が育っていますが、これらは光合成を行う生産者と位置付けられます。また、枝葉を食べる昆虫や草食動物は消費者に位置付けられます。そして、土壌昆虫やキノコに代表される菌類が分解者として生活することで、生産→消費→分解とつながり健全な森のサイクルが完成します。このように、キノコは森の中でとても大きな役割を担っています。

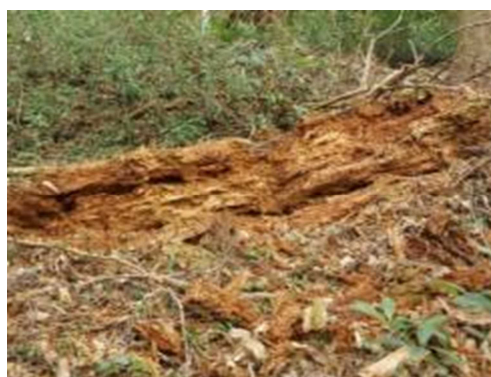
キノコは、大きく二つのグループに分けることができます。一般的に二つのグループというと「食用キノコ」と「毒キノコ」を連想されますが、ここではキノコの生活パターンから二つに分けます。

一つ目は、森の掃除をするグループで「腐朽菌類」と呼ばれています。腐朽菌類は、落ち葉や落ち枝、枯れ木に発生し、有機物を分解するキノコです。有名なものは世間一般で広く栽培されている「シイタケ」があり、原木のホダ木を分解しながら成長して、最後は硬いコナラなどの原木をグスグスに腐らせます。また、樹勢が衰えた老齢のソメイヨシノや街路樹などに侵入して、樹木を枯損させたり根株を腐らせ倒壊させたりするケース（ベッコウタケやナラタケなど）もあります。自然の森の中では、このように立木を枯らすと開いたスペースに新しい樹木が育つことにつながるため、腐朽菌類は、森を若返らせることで、持続性のある森の維持に一役を担っていると理解できます。

もう一つのグループは、樹木と共生関係を持つ「菌根菌類」となります。尾根などの痩せた土壌でも大木が育つのは、この菌根菌類が関わっています。樹木の根は、礫や岩石から必要な養分を吸収することが出来ませんが、菌根菌類は岩石の隙間に菌糸を広げ、岩石の無機養分を吸収することができます。その養分は、樹木の根に供給しますが、逆に樹木が光合成で生産した糖類（でんぷん類）を供給してもらうことで共生関係を築いています。有名なものは「マツタケ」です。このため、ホダ木に菌



クロサルノコシカケ（腐朽菌類）により心材がフワフワになり樹体支持力が無くなり危険木として伐採されたシラカシ



林内の倒木が分解され、土壌として堆積され始めている。

を打って作るシイタケなどの腐朽菌類と違い、菌根菌類のマツタケは、生きているマツと共生関係を持って育つため、栽培が出来ないといわれています。

菌根菌類は樹木だけでなく、あらゆる植物の根と共生関係を持つものが多く存在し、ランのラン菌やマメ科の根粒菌などが有名です。樹木などの根と共生関係を持つため、キノコは樹木の周りにサークル状に発生したり、根に沿って直線状に発生したりすることがあります。この菌根菌類を利用して植物を健全に育てる取組や、砂漠などの過酷な環境で植林を行うなどの事例は多々ありますが、まだ不明な部分が多く一部の種類が土壌改良のため産業利用されているに過ぎません。



根に沿って発生するテングタケダマシ

○ キノコの動向

一般に「キノコの季節は？」と問いかけると、ほぼ100%の方が秋と答えます。しかし、本市で目にすることができるキノコは、梅雨明け直後が一番活発に活動しており、多くの種類を確認することができます。一般的に平均気温が18℃を超えると胞子の飛散が始まると言われていることから、キノコの季節は梅雨明けから始まると考えています（一部の種類は低温で胞子を飛散させます）。

梅雨明けから夏場に見られるキノコは、ベニタケ科やテングタケ科の毒キノコが多く、可食のキノコはまれですが、本市の夏の森を彩っています。

本市が位置する南関東は、日本の中では常緑広葉樹が育つ北端で、北関東以北は落葉樹が優先する地域となります。かつて温暖な気候を好む植物は、箱根を超えて関東に侵入することは難しいと言われてきました。しかし、地球温暖化や東京のヒートアイランド現象などにより、年間の平均気温の上昇が続いており、種子で拡散する植物だけでなく、胞子で拡散する熱帯・温帯暖地由来の菌類も、その分布を広げています。一般的に、植物は0.1℃平均気温が上がると水平方向に500m北上するといわれており、本市でも、暖地特有のキノコが見られるようになってきました。



ドクベニタケ

特に目立つのがアミガサタケで、複数の箇所を確認しています。このキノコは梅雨の蒸し暑いときに竹林に発生します。独特の腐臭を放ち、ハエなどを呼び寄せて、レース状の幕を潜らせることで粘着力のある胞子をハエにつけて運ばせて分布を広げるキノコです。動物の死臭又はフンのような臭いは独特ですが、フランス料理や中国宮廷料理では高級食材とされ、世界では美味しいキノコと言われています。

他にも、熱帯由来で猛毒キノコとして話題になっているカエンタケも市内で確認しました。菌類は研究者が少なく、カエンタケもまだまだ不明な点が多く解明されたキノコとは言えません。関西を中心に分布拡大が問題になっており、時折、ニュースや新聞にも取り上げられています。

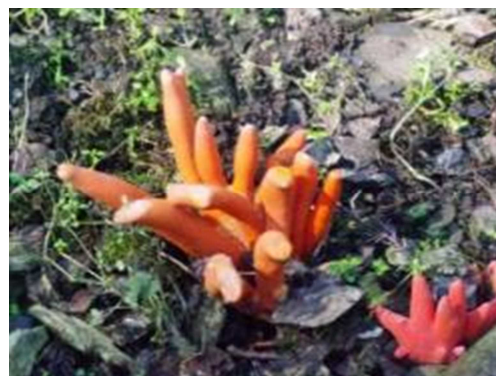
カエンタケは非常に毒性（食毒）が強く微量でも誤食すると致死率が高いと言われています。また、助かったとしても小脳の一部が破壊されて、言語障害や身体機能障害が後遺症として発症すると言われています。さらに、キノコの内液が体に付くと火傷の様な糜爛（びらん）になると言われています。誤食のときも、始めに口内がただれるとの記録があるそうです。近年の分布拡大による誤食などの死亡事故はないようですが、非常に危険なキノコです。

市内で発見したカエンタケは、トチの切り株に発生したアミスギタケにより根株の腐朽（白色腐朽）が進み、白くフワフワになった腐朽部から発生していることを確認しました。その発生形態から腐朽力の弱いキノコであり、自身の腐朽力では固い根株に侵入できないと推測しました。実際に、関西ではナラ枯れ病によって集団枯損したブナやミズナラ、コナラ、カシ類などが増えたことによってカエンタケが広がったと言われています。

このように熱帯由来（温帯暖地）のキノコは今後も増えていくものと考えられます。



アミガサタケ



カエンタケ



カエントケの幼菌



アミスギタケ

○ キノコ同定

本市で同定したキノコは、252種となっています。

キノコの基本的な同定方法は、写真を撮り、図鑑と付き合わせて行いますが、キノコの形は様々で、幼菌や傘が開いた状態、傘が開いて反り返った状態などがあり、さらに、時間経過で色が変わるもの、多孔菌類でコケ類により変色しているものなどがあります。図鑑と同じ状態なら同定できますが、現場で撮影する時の状態が違ってくると同定は難しくなることから、常時10種程が未同定となるため、今後も定期的な検索が必要となります。本市には、まだまだ多くのキノコが存在しています。

次の表は、本市で同定したキノコの一覧になります。赤字の21種類が前回の報告以降に同定したものです。

〈あきる野市で同定したキノコ一覧〉

科	属	学名	和名
アカカゴタケ科	Pseudocolous(サンコタケ属)	<i>Pseudocolous schellenbergiae</i>	サンコタケ
アミガサタケ科	Morchella(アミガサタケ属)	<i>Morchella esculenta</i> var. <i>esculenta</i>	アミガサタケ
アンズタケ科	Cantharellus (アンズタケ属)	<i>Cantharellus cibarius</i> <i>Cantharellus lateritius</i> <i>Cantharellus luteocomus</i>	アンズタケ アンズタケモドキ トキイロラッパタケ
イグチ科	Boletellus(キクバナイグチ属)	<i>Boletellus emodensis</i> <i>Boletellus shichianus</i> <i>Boletellus obscurecoccineus</i>	キクバナイグチ トゲミノヒメイグチ ミヤマベニイグチ
	Boletus(ヤマドリタケ属)	<i>Boletus calopus</i> <i>Boletus griseus</i> var. <i>fuscus</i> <i>Boletus pseudocalopus</i> <i>Boletus reticulatus</i> <i>Boletus sinapicolor</i> f. <i>japonicus</i> <i>Boletus violaceofuscus</i>	アシベニイグチ オオミノクロアワタケ ニセアシベニイグチ ヤマドリタケモドキ ヨゴレキアミアシイグチ ムラサキヤマドリタケ
	Gyroporus(クイロイグチ属)	<i>Gyroporus cyanescens</i>	アイゾメイグチ
	Heimiella(ベニイグチ属)	<i>Heimiella japonica</i>	ベニイグチ
	Tyloporus(ヤマイグチ属)	<i>Leccinum bortonii</i> <i>Leccinum holopus</i> <i>Leccinum intusrubens</i> <i>Leccinum scabrum</i> <i>Leccinum versipelle</i>	シワチャヤマイグチ シロヤマイグチ イロガワリヤマイグチ ヤマイグチ キンチャヤマイグチ
	Pulveroboletus(キイロイグチ属)	<i>Pulveroboletus auriflammeus</i>	ハナガサイグチ
	Suillus(ヌメリイグチ属)	<i>Suillus bovinus</i> <i>Suillus granulatus</i>	アミタケ チチアワタケ
	Tylopilus(ニガイグチ属)	<i>Tylopilus otsuensis</i> <i>Tylopilus rigens</i> <i>Tylopilus virens</i> <i>Tylopilus ballouii</i> <i>Tylopilus castaneiceps</i> <i>Tylopilus chromapes</i> <i>Tylopilus eximius</i> <i>Tylopilus ferrugineus</i> <i>Tylopilus neofelleus</i> <i>Tylopilus nigerrimus</i> <i>Tylopilus valens</i>	コビチャニガイグチ オクヤマニガイグチ ミドリニガイグチ キニガイグチ ヌメリニガイグチ アケボノアワタケ ウラグロニガイグチ チャニガイグチ ニガイグチモドキ モエギアミアシイグチ ホオベニシロアシイグチ
	Xerocomus(アワタケ属)	<i>Xerocomus nigromaculatus</i> <i>Xerocomus subtomentosus</i> <i>Xerocomus chrysenteron</i>	クロアザアワタケ アワタケ キッコウアワタケ
オニイグチ科	Strobilomyces(オニイグチ属)	<i>Strobilomyces seminudus</i>	コオニイグチ
イッポンシメジ科	Entoloma (イッポンシメジ属)	<i>Entoloma madidum</i> <i>Entoloma murraii</i> <i>Entoloma sarcopum</i> <i>Entoloma sericellum</i> <i>Entoloma rhodopolium</i> <i>Entoloma murraii</i> f. <i>album</i> <i>Entoloma staurosporum</i> <i>Entoloma nidorosum</i>	ウスムラサキイッポンシメジ キイボカサタケ ウラベニホテイシメジ キヌモミウラタケ クサウラベニタケ シロイボカサタケ ミノモミウラモドキ コクサウラベニタケ
イボタケ科	Thelephora(イボタケ属)	<i>Thelephora japonica</i> <i>Thelephora aurantiotincta</i> <i>Thelephora palmata</i>	イボタケ ボタンイボタケ モミジタケ
ウラベニガサ科	Limacella(ヌメリカラカサタケ属)	<i>Limacella illinita</i>	シロヌメリカラカサタケ
オキナタケ科	Bolbitius(オキナタケ属)	<i>Bolbitius reticulatus</i> <i>Bolbitius vitellinus</i>	クロシワオキナタケ シワナシオキナタケ
カレエダタケ科	Clavulina(カレエダタケ属)	<i>Clavulina cristata</i>	カレエダタケ
キクラゲ科	Auricularia(キクラゲ属)	<i>Auricularia auricula</i>	キクラゲ
キシメジ科	Armillariella(ナラタケ属)	<i>Armillariella mellea</i> <i>Armillariella tabescens</i>	ナラタケ ナラタケモドキ
	Calocybe(カヤタケ属)	<i>Calocybe gambosa</i> <i>Clitocybe robusta</i> <i>Clitocybe nebularis</i>	ユキワリ シロノハイイロシメジ ハイイロシメジ
	Clitocybula(ヒメホウライタケ属)	<i>Clitocybula esculenta</i>	オドタケ
	Collybia(モリノカレバタケ属)	<i>Collybia maculata</i> <i>Collybia peronata</i>	アカアザタケ ワサビカレバタケ

科	属	学名	和名
キシメジ科	Laccaria (キツネタケ属)	<i>Laccaria bicolor</i> <i>Laccaria vinaceoavellanea</i>	オオキツネタケ カレバキツネタケ
	Melanoleuca (ザラミノシメジ属)	<i>Melanoleuca melaleuca</i>	コザラミノシメジ
	Macrocystidia (クリイロムクエタケ属)	<i>Macrocystidia cucumis</i>	クリイロムクエタケ
	Marasmius (ホウライタケ属)	<i>Marasmius graminum</i>	ヒメホウライタケ
		<i>Marasmius purpureostriatus</i>	スジオチバタケ
		<i>Marasmius maximus</i>	オオホウライタケ
		<i>Marasmius pulcherripes</i>	ハナオチバタケ
	Micromphale (サカズキホウライタケ属)	<i>Micromphale</i> sp.	サカズキホウライタケ
	Mycena (クヌギタケ属)	<i>Mycena baematopus</i>	チシオタケ
		<i>Mycena lux-coeli</i>	シイノトモシビタケ
		<i>Mycena crocata</i>	アカチシオタケ
		<i>Mycena pura</i>	サクラタケ
		<i>Mycena sanguinolenta</i>	ヒメチシオタケ
	Oudemansiella (ツエタケ属)	<i>Oudemansiella platyphyllo</i> <i>Oudemansiella venosolamellata</i>	ヒロヒダタケ ヌメリツバタケモドキ
	Panellus (ワサビタケ属)	<i>Panellus serotinus</i>	ムキタケ
キンカク菌類	Toricholoma (キシメジ属)	<i>Toricholoma virgatum</i>	ネズミシメジ
		<i>Tricholoma japonicum</i>	シロシメジ
		<i>Tricholoma radicans</i>	シロマツタケモドキ
		<i>Tricholoma saponaceum</i>	ミネシメジ
	Lanzia (ランツシア属)	<i>Lanzia huangshanica</i> var. <i>Huangshanica</i>	オチバノアカビョウタケ
	Galiella (オオゴムタケ属)	<i>Galiella celebica</i>	オオゴムタケ
	Ceraceomyces (アウキヒモカワタケ属)	<i>Ceraceomyces tessulatus</i>	イトツキマクコウヤクタケ
		<i>Peniophora quercina</i>	カワタケ
		<i>Pulcherricium caeruleum</i>	アイコウヤクタケ
	Pulcherricium (アイコウヤクタケ属)	<i>Pulcherricium caeruleum</i>	アイコウヤクタケ
	Antrodiella (ニカワオシロイタケ属)	<i>Antrodiella gypsea</i>	シツクイタケ
	Cerrena (ミダレアミタケ属)	<i>Cerrena unicolor</i>	ミダレアミタケ
	Coltricia (オツネンタケ属)	<i>Coltricia cinnamomea</i>	ニッケイタケ
	Coriolopsis (センベイトケ属)	<i>Coriolopsis strumosa</i>	センベイトケ
サルノコシカケ科	Cryptoporus (ヒトクチャタケ属)	<i>Cryptoporus volvatus</i>	ヒトクチャタケ
	Daedaleopsis (チャミダレアミタケ属)	<i>Daedaleopsis confragosa</i>	チャミダレアミタケ
		<i>Daedaleopsis styracina</i>	エゴノキタケ
		<i>Daedaleopsis tricolor</i>	チャカイガラタケ
	Datronia (シカタケ属)	<i>Datronia mollis</i>	シカタケ
	Fomitopsis (ツガサルノコシカケ属)	<i>Fomitopsis spraguei</i>	カタオシロイタケ
		<i>Fomitopsis pinicola</i>	ツガサルノコシカケ
	Junghuhnia (ニクイロアナタケ属)	<i>Junghuhnia nitida</i>	ニクイロアナタケ
	Laetiporus (アイカワタケ属)	<i>Laetiporus versisporus</i>	ヒラフスベ
	Lenzites (カイガラタケ属)	<i>Lenzites betulinus</i>	カイガラタケ
	Microporus (トンビマイタケ属)	<i>Microporus affinis</i>	ウチワタケ
	Oxyporus (シロサルノコシカケ属)	<i>Oxyporus populinus</i>	シロサルノコシカケ
		<i>Oxyporus corticola</i>	ザイモクタケ
	Perenniporia (ウスキアナタケ属)	<i>Perenniporia minutissima</i>	サワフタギタケ
		<i>Perenniporia ochroleuca</i>	ウズラタケ
		<i>Phellinus igniarius</i>	キコブタケ
	Piptoporus (カンバタケ属)	<i>Piptoporus soloniensis</i>	シロカイメンタケ
	Polyporus (タマチヨレイタケ属)	<i>Polyporus arcularius</i>	アミスギタケ
		<i>Polyporus tenuiculus</i>	ミナミアシグロタケ
	Postia (オオオシロイタケ属)	<i>Postia caesia</i>	アオゾメタケ
		<i>Postia guttulata</i>	シミガタセンベイトケ
	Rigidoporus (スルメタケ属)	<i>Rigidoporus lineatus</i>	スルメタケ
	Schizopora (アナタケ属)	<i>Schizopora flavipora</i>	アナタケ
	Trametes (シロアミタケ属)	<i>Trametes gibbosa</i>	オオチリメンタケ
		<i>Trametes pubescens</i>	ヤキフタケ
		<i>Trametes versicolor</i>	カワラタケ
	Trichaptum (シハイタケ属)	<i>Trichaptum bifforme</i>	ハカワラタケ
サンゴハリタケ科	Hericium (サンゴハリタケ属)	<i>Hericium ramosum</i>	サンゴハリタケ
	Sebacina (ロウタケ属)	<i>Sebacina incrustans</i>	ロウタケ
シロキクラゲ科	Tremella (シロキクラゲ属)	<i>Tremella foliacea</i> <i>Tremella fuciformis</i>	ハナビラニカワタケ シロキクラゲ
	Clavulinopsis (ナギナタタケ属)	<i>Clavulinopsis miyabeana</i>	ベニナギナタタケ
シロソウメンタケ科	Pterula (フサタケ属)	<i>Pterula multifida</i>	フサタケ

科	属	学名	和名
シロソウメンタケ科	Ramariopsis(ヒメホウキタケ属)	<i>Ramariopsis crocea</i> <i>Ramariopsis kunzei</i>	アカヒメホウキタケ シロヒメホウキタケ
ズキンタケ科	Bisporella(ビョウタケ属) Cudoniella(ミズベノニセズキンタケ属)	<i>Bisporella citrina</i> <i>Cudoniella clavus</i>	ビョウタケ ミズベノニセズキンタケ
タバコウロコタケ科	Hymenochaete(タバコウロコタケ属) Phellinus(キコブタケ属)	<i>Hymenochaete rubiginosa</i> <i>Phellinus punctatus</i> <i>Phellinus umbrinellus</i>	エビウロコタケ チャアナタケモドキ チャアナタケ
スッポンタケ科	Dictyophora(キヌガサタケ属) Phallus(スッポンタケ属)	<i>Dictyophora indusiatus</i> <i>Phallus impudicus</i>	キヌガサタケ スッポンタケ
ツチグリ科	Astraeus(ツチグリ属)	<i>Astraeus hygrometricus</i>	ツチグリ
テングタケ科	Amanita(テングタケ属)	<i>Amanita alboflavescens</i> <i>Amanita castanopsidis</i> <i>Amanita citrina</i> var. <i>citrina</i> <i>Amanita citrina</i> var. <i>grisea</i> <i>Amanita cokeri</i> f. <i>roseotincta</i> <i>Amanita esculenta</i> <i>Amanita perpast</i> <i>Amanita farinosa</i> <i>Amanita griseofarinosa</i> <i>Amanita hemibapha</i> <i>Amanita neoovoidea</i> <i>Amanita pantherina</i> <i>Amanita pseudoporphyrina</i> <i>Amanita rubrovolvata</i> <i>Amanita sinensis</i> <i>Amanita spissacea</i> <i>Amanita subjunquillea</i> <i>Amanita sychonopyramis</i> f. <i>subannulata</i> <i>Amanita vaginata</i> <i>Amanita vaginata</i> var. <i>alba</i> <i>Amanita verna</i> <i>Amanita virgineoides</i> <i>Amanita virosa</i> <i>Amanita volvata</i>	キウロコテングタケ コシロオニタケ コタマゴテングタケ クロコタマゴテングタケ ササクレシロオニタケ ドウシндаケ オニテングタケ ヒメコナカブリツルタケ コナカブリテングタケ タマゴタケ シロテングタケ テングタケ コテングタケモドキ ヒメベニテングタケ ハイカグラテングタケ ヘビキノモドキ タマゴタケモドキ テングタケダマシ ツルタケ シロツルタケ シロタマゴテングタケ シロオニタケ ドクツルタケ フクロツルタケ
	Limacella(ヌメリカラカサタケ属)	<i>Limacella illinita</i>	シロヌメリカラカサタケ
テングノメシガイ科	Geoglossum(カバイロテングノメシガイ属) Microglossum(シャモジタケ属) Trichoglossum(テングノメシガイ属)	<i>Geoglossum fallax</i> var. <i>fallax</i> <i>Microglossum rufum</i> <i>Trichoglossum hirsutum</i> f. <i>hirsutum</i>	カバイロテングノメシガイ キシヤモジタケ テングノメシガイ
ニクザキン科	Podostroma(ツノタケ属)	<i>Podostroma cornu-damae</i>	カエンタケ
ニクハリタケ科	Irpex(ウスバタケ属)	<i>Irpex lacteus</i>	ウスバタケ
ヌメリガサ科	Camarophyllus(オトメノガサ属) Hygrophorus(ヌメリガサ属) Hygrocybe(アカヤマタケ属)	<i>Camarophyllus virgineus</i> <i>Hygrophorus lucorum</i> <i>Hygrophorus purpurascens</i> <i>Hygrophorus camarophyllus</i> <i>Hygrocybe flavescens</i> <i>Hygrocybe ovina</i> <i>Hygrocybe punicea</i>	オトメノカサ キシヌメリガサ サクラシメジモドキ ヤギタケ アキヤマタケ オオヒメノカサ ヒロガサ
ノボリリュウ科	Gyromitra(シャグマアミガサタケ属)	<i>Gyromitra esculenta</i>	シャグマアミガサタケ
ハラタケ科	Agaricus(ハラタケ属) Phaeolepiota(コガネタケ属) Macrolepiota(カラカサタケ属) Lepiota(キツネノカラカサ属) Crucispora(ヒシノミシバフタケ属) Leucocoprinus(キヌカラカサタケ属)	<i>Agaricus abruptibulbus</i> <i>Agaricus praeclaresquamosus</i> <i>Agaricus campestris</i> <i>Agaricus subrutilescens</i> <i>Phaeolepiota aurea</i> <i>Macrolepiota procera</i> <i>Macrolepiota sp.</i> <i>Lepiota cygnea</i> <i>Crucispora rhombisperma</i> <i>Leucocoprinus subglobisporus</i>	ウスキモリノカサ ナガクロモリノガサ ハラタケ ザラエノハラタケ コガネタケ カラカサタケ マントカラカサタケ シロヒメカラカサタケ ヒシノミシバフタケ マルミノヒガサタケ
ヒダハタケ科	Paxillus(ヒダハタケ属)	<i>Paxillus atrotomentosus</i>	ニワタケ
ヒトヨタケ科	Coprinus(ヒトヨタケ属)	<i>Coprinus disseminatus</i> <i>Coprinus leiocephala</i> <i>Coprinus lagopus</i> <i>Coprinus cinereus</i>	イヌセンボンタケ コツブヒメヒガサヒトヨタケ ザラエノヒトヨタケ ネナガノヒトヨタケ

科	属	学名	和名
ヒトヨタケ科	Psathyrella (ナヨタケ属)	<i>Psathyrella spadiceogrisea</i>	アシナガイタチタケ
		<i>Psathyrella candolleana</i>	イタチタケ
		<i>Psathyrella gracilis</i>	ナヨタケ
ヒメツチグリ科	Geastrum (ヒメツチグリ属)	<i>Geastrum schmidelii</i>	ヒメツチグリ
		<i>Geastrum saccatum</i>	フクロツチガキ
ヒラタケ科	Neolentinus (マツオウジ属)	<i>Neolentinus lepideus</i>	マツオウジ
	Panus (カワキタケ属)	<i>Panus rudis</i>	アラゲカワキタケ
		<i>Panus suavissimus</i>	ニオイカワキタケ
		<i>Panus tigrinus</i>	ケガワタケ
	Pleurotus (ヒラタケ属)	<i>Pleurotus reniformis</i>	ヒメムキタケ
フウセンタケ科	Cortinarius (フウセンタケ属)	<i>Cortinarius albobolaceus</i>	ウスフジフウセンタケ
		<i>Cortinarius obtusus</i>	サザナミセフウセンタケ
		<i>Cortinarius pseudosalor</i>	ヌメリササタケ
		<i>Cortinarius trivialis</i>	マムシフウセンタケ
		<i>Cortinarius anomalus</i>	マルミノフウセンタケ
		<i>Cortinarius violaceus</i>	ムラサキフウセンタケ
	Dermocybe (ササタケ属)	<i>Dermocybe cinnamomea</i>	ササタケ
	Galerina (ケコガサタケ属)	<i>Galerina helvoliceps</i>	ヒメアジロガサモドキ
		<i>Galerina heterocystis</i>	フユノコガサ
	Inocybe (アセタケ属)	<i>Inocybe kobayashii</i>	コバヤシアセタケ
		<i>Inocybe geophylla</i>	シロトマヤタケ
フサヒメホウキタケ科	Clavicornia (フサヒメホウキタケ属)	<i>Clavicornia pyxidata</i>	フサヒメホウキタケ
ベニタケ科	Lactarius (チチタケ属)	<i>Lactarius acris</i>	ハイイロカラチチタケ
		<i>Lactarius laeticolor</i>	アカモミタケ
		<i>Lactarius piperatus</i>	ツチカブリ
		<i>Lactarius pubescens</i>	シロカラハツタケ
		<i>Lactarius quietus</i>	チョウジチチタケ
		<i>Lactarius subplinthogalus</i>	ヒロハウスズミチチタケ
		<i>Lactarius subvellerus</i>	ケシロハツモドキ
		<i>Lactarius tottoriensis</i>	キハツダケ
		<i>Lactarius vellerus</i>	ケシロハツ
		<i>Lactarius vellerus</i>	ツギハギハツ
	Russula (ベニタケ属)	<i>Russula eburneoareolata</i>	ヒビワレシロハツ
		<i>Russula alboareolata</i>	ニシキタケ
		<i>Russula aurea</i>	カレバハツ
		<i>Russula castanopsidis</i>	クサハツ
		<i>Russula foetens</i>	カワリハツ
		<i>Russula cyanoxantha</i>	シロハツ
		<i>Russula delicata</i>	クロハツモドキ
		<i>Russula densifolia</i>	ドクベニタケ
		<i>Russula emetica</i>	シロハツモドキ
		<i>Russula japonica</i>	ヤブレベニタケ
		<i>Russula lepida</i>	ウスムラサキハツ
		<i>Russula lilacea</i>	チギレハツタケ
		<i>Russula vesca</i>	ケショウハツ
		<i>Russula violeipes</i>	ベニチャワンタケモドキ
ベニチャワンタケ科	Sarcoscypha (ベニチャワンタケ属)	<i>Sarcoscypha occidentalis</i>	ベニチャワンタケモドキ
	Wynnea (ミミズサタケ属)	<i>Wynnea gigantea</i>	ミミズサタケ
ホウキタケ科	Ramaria (ホウキタケ属)	<i>Ramaria ephemeroderma</i>	ウスカワホウキタケ
		<i>Ramaria rubrievanescens</i>	サクラホウキタケ
		<i>Ramaria botrytis</i>	ホウキタケ
ホコリタケ科	Calvatia (ノウタケ属)	<i>Calvatia craniiformis</i>	ノウタケ
	Langermania (オニフスベ属)	<i>Langermania nipponica</i>	オニフスベ
	Lycoperdon (ホコリタケ属)	<i>Lycoperdon lividum</i>	キホコリタケ
		<i>Lycoperdon perlatum</i>	ホコリタケ
マンネンタケ科	Ganoderma (マンネンタケ属)	<i>Ganoderma applanatum</i>	コフキサルノコシカケ
		<i>Ganoderma neo-japonicum</i>	マゴシヤクシ
ミヤマトンビマイ科	Amauroderma (コマタケ属)	<i>Amauroderma subrugosum</i>	コマタケ
モエギタケ科	Hypholoma (クリタケ属)	<i>Hypholoma fasciculare</i>	ニガクリタケ
	Stropharia (モエギタケ属)	<i>Stropharia aeruginosa</i>	モエギタケ
ラシオスファエリア科	Lasiosphaeria (ラシオスファエリア属)	<i>Lasiosphaeria sp.</i>	ラシオスファエリア
ラッパタケ科	Gomphus (ラッパタケ属)	<i>Gomphus fuisanensis</i>	フジウスタケ
		<i>Gomphus floccosus</i>	ウスタケ
		<i>Gomphus kauffmanii</i>	オニウスタケ



東京都あきる野市